

スペインの子供たちの 絵画展を開催

六月二十六日から七月一日まで、市役所二階市民ホールでスペイン南部・グラナダ市の子供たちの絵画展が開かれます。主催するのは、スペイン語圏の国々の社会・文化を勉強している主旨的サークル「ドミンゴ・エスパニョール」の皆さん約十人。



△絵のテーマは
「グラナダとその未来」



県内唯一の双方中方墳



△庚申塚古墳

東海道線東田子の浦駅の東方約500mのところにある庚申塚古墳は、全国的にも類が少なく県内唯一の双方中方墳です。つくられたのは6世紀ごろで、この地域の豪族の双方中方墳 古墳と推定されます。庚申塚の場所は、ちょうど駿河湾の砂丘が浮島沼に接する、海拔わずか5mの低地です。

東西の長軸の長さが40m、高さは中央北側で3.5mあります。墳丘には、直径10~20cmの浜石による葺石がありました。

古墳の形は被葬者の位や時期などで変わり、市内には、ほかに円墳や前方後円墳、前方後方墳があります。

隠れた人気者 中央公園のアイガモ



東京では毎年この時期、カルガモが話題となります。富士にもちょっとした人気のアイガモが中央公園（市民ブルーランド）にいます。

このカモは褐色や緑のきれいな五匹で、去年から住みついています。お尻を振り振り歩く姿や、頭を池に入れてえさを探す様子は、愛きょうがあり、訪れる人を楽しめています。中央公園はこれからハナショウブが見ごろになります。合わせてご覧ください。

昔はどこにでもあった火の見やぐら。ところが、いつの間にか身近な場所からなくなってしまったと思いませんか。

中比奈一丁目の米山義雄さんは、数少なくなった火の見やぐらの見える風景を油絵で描き、五月に吉永公民館で作品展を開きました。

一口に火の見やぐらといつても昔のままのものから最近できた珍しいものまでいろいろ。周囲の風景も四季折々で、作品はそのまま富士の歳時記となっていました。

どんなにおもしろいテレビ番組も、お母さんの語る読み聞かせにはかないません。読み聞かせにより生まれる創造力を伸ばし、本好きな子供を育てたいという願いから「あおむし」は生まれました。

メンバーは元吉原幼稚園の保護者の皆さんを中心に約十人。四年前に幼稚園のクリスマス会で大型紙芝居をやったのがきっかけで結成されました。以来、紙芝居を初め人形劇や飛び出す絵本など、多彩なものを手がけてきました。

現在は、元吉原公民館で月に四・五回会合を持ち、作品の制作や練習を行っています。発表の場は主に元吉原幼稚園ですが、保育園や地区の文化祭などにも登場しています。五月二十八日には、田子浦公民館で行われた「第六回こどもまつり」でも活躍しました。

代表の秋山なおみさんは「子供たちの反応は正直。おもしろければ食い

富士の歳時記を表現 火の見やぐらを描き



米山義雄さん



子供たちに夢を

読み聞かせの会「あおむし」の皆さん

本の読み聞かせは、子供たちの創造力を高め、親子の触れ合いを強めます。今回は、いろいろなスタイルで本の読み聞かせを行っている「あおむし」の皆さん

の会合におじゃましました。

入るように見てくれますが、つまらなければすぐガヤガヤします。だから発表のときは、今でも緊張しますよ」と語ります。

会の運営は無理をしないのを基本として、最近はお菓子づくりなどにも挑戦しています。「ただ今、仲間になってくれる人を募集中」とのことでした。問い合わせは秋山方 **三一〇九**へ。



△一番の力作、飛び出す絵本の練習をする皆さん